



2025年9月期 決算補足説明資料

2025年11月14日



エグゼクティブサマリ

増益転換

2025/9期は70%経常増益。大規模新增改築案件が牽引。M&A関連費用の発生などを吸収し、ほぼ想定通りの着地

株式取得

10月、ファスキアグループの株式取得完了。これにより、企業規模の拡大とポートフォリオ強化による経営安定化を推進

EBITDA

2026/9期のEBITDAは2.5倍へ。ファスキア統合が収益水準を底上げ。ただし、のれん償却により想定経常増益率は23%

MTS事業

メディカルトータルソリューション事業の新增改築案件は、先行指標順調も、病院環境厳しく苦戦。一方、注力領域は伸長



1

2025年9月期決算実績



2025年9月期経営成績①

- 2025/9期は対前年8.5%増収、70%経常増益。増益転換は3期ぶり。主力のメディカルトータルソリューション事業で大規模案件の売上計上が増益を牽引。給食事業の苦戦やM&A関連費用1億円の計上あるも、それらを吸収
- 従来想定との比較では、売上が想定未達。メディカルトータルソリューション事業で新增改築案件の計上遅れが影響したものの、販管費コントロールが奏功し、利益面ではほぼ想定通りの着地

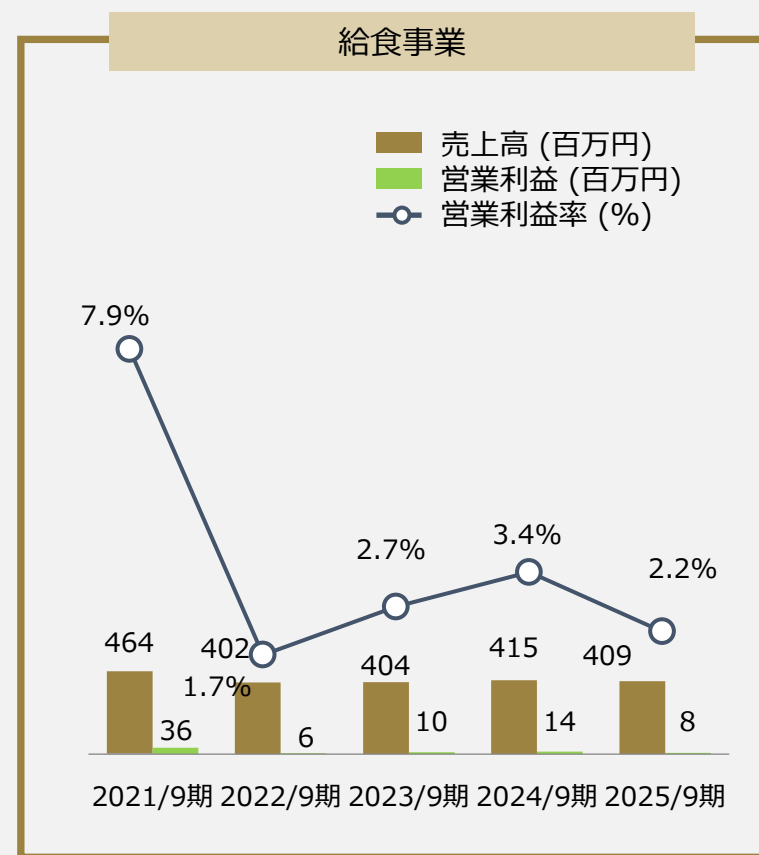
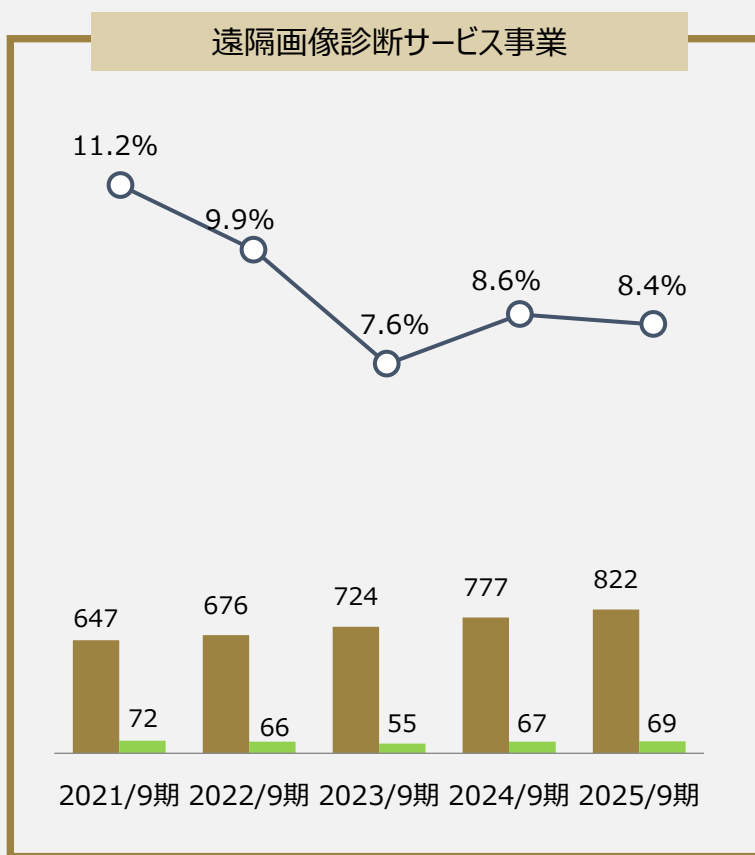
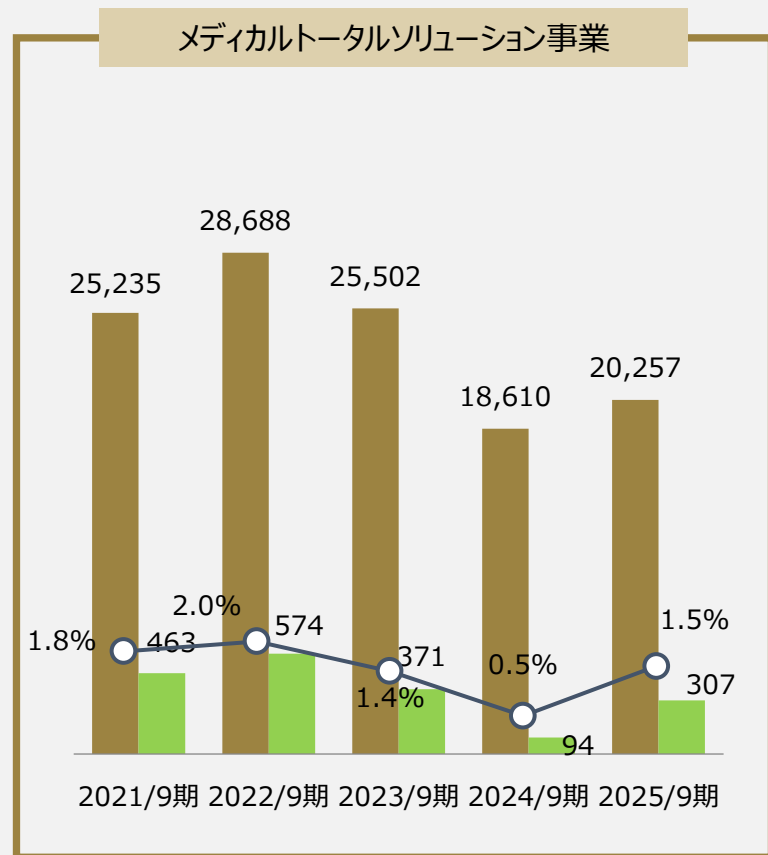
経営成績の推移

(百万円)	2022/9期 実績	2023/9期 実績	2024/9期 実績	2025/9期				
				従来想定	実績	想定比較	前年比較	
						差異	差異	増減率
売上高	29,767	26,632	19,804	22,500	21,489	▲1,010	+1,685	+8.5%
メディカルトータルソリューション	28,688	25,502	18,610	21,309	20,257	▲1,051	+1,646	+8.8%
遠隔画像診断サービス	676	724	777	782	822	+39	+44	+5.7%
給食	402	404	415	408	409	+1	▲6	▲1.5%
営業利益	650	440	178	300	288	▲11	+110	+61.9%
メディカルトータルソリューション	574	371	94	232	307	+75	+213	3.3倍
遠隔画像診断サービス	66	55	66	65	69	+3	+2	+3.3%
給食	6	10	14	0	8	+8	▲5	▲37.6%
調整	2	2	2	1	▲97	▲99	▲100	損失計上
経常利益	709	431	181	300	308	+8	+127	+70.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	437	271	136	160	152	▲7	+16	+12.3%

セグメント別業績推移

- メディカルトータルソリューション事業の売上は3期ぶりに拡大転換。大規模案件計上の影響大きく、利益率も上昇
- 遠隔画像診断サービス事業は順調。5期連続の増収を達成し、委託費単価上昇や人件費増あるものの、利益率も一定水準を持続
- 給食事業は減収減益。収益性改善への取組み続けるも、利益率は低下

経営成績の推移





2025年9月期経営成績②

- 4Q発生ベースでは対前年で増収減益。本社費用におけるM&A関連費用増やメディカルトータルソリューション事業の新增改築案件期ズレが影響
- 4Qの粗利率は12.0%。2Q・3Qからは1ポイントほどの低下になるが、これは新增改築案件の減少が影響したもの。採算向上への取組スタンスは継続しており、高水準の粗利率維持という傾向に変化はないと認識

経営成績の推移

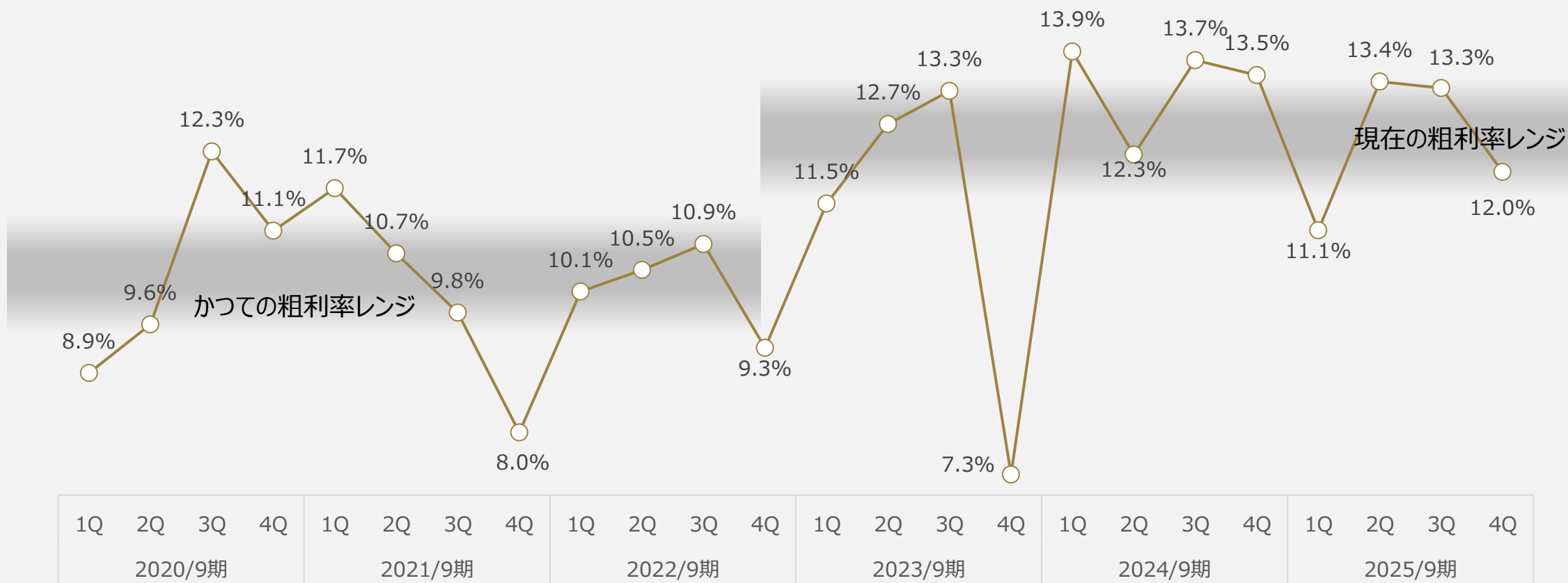
(百万円)	2023/9期				2024/9期				2025/9期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	4,936	6,725	5,012	9,957	5,414	6,803	3,496	4,090	3,171	9,769	4,267	4,281
メディカルトータルソリューション	4,650	6,444	4,733	9,674	5,124	6,509	3,189	3,787	2,871	9,466	3,954	3,965
遠隔画像診断サービス	180	181	178	184	186	185	200	205	206	203	204	208
給食	105	99	100	99	102	108	106	97	93	99	109	107
営業利益	▲11	274	74	102	136	221	▲120	▲59	▲235	732	▲22	▲186
メディカルトータルソリューション	▲34	253	58	94	117	200	▲147	▲76	▲256	709	▲46	▲98
遠隔画像診断サービス	20	18	11	6	15	15	21	15	23	18	17	10
給食	1	2	4	2	2	5	5	1	▲2	4	6	0
調整	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	▲99
粗利率	11.5%	12.7%	13.3%	7.3%	13.9%	12.3%	13.7%	13.5%	11.1%	13.4%	13.3%	12.0%



粗利益率の推移

- 粗利率の引上げ努力が奏功し、粗利率のレンジはかつて10%程度であった粗利率のレンジは、現在12～13%まで上昇
- 4Qの粗利益率もこのレンジ内での推移

全社粗利益率の推移





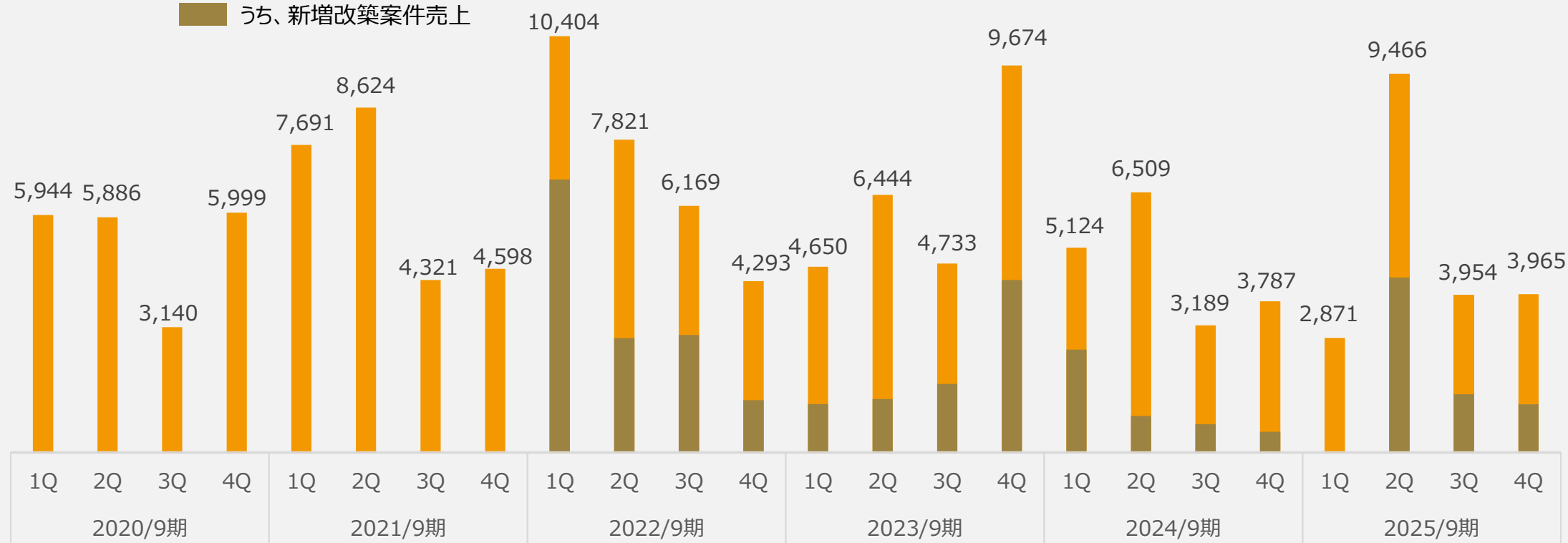
メディカルトータルソリューション事業売上推移

- メディカルトータルソリューション事業の4Q売上高は40億円。3Qとほぼ横ばいの推移
- ただし、新增改築案件売上は3Q比で微減。そのため、採算的には対3Qでやや低下

メディカルトータルソリューション事業売上推移

(百万円)

■ メディカルトータルソリューション事業売上
■ うち、新增改築案件売上



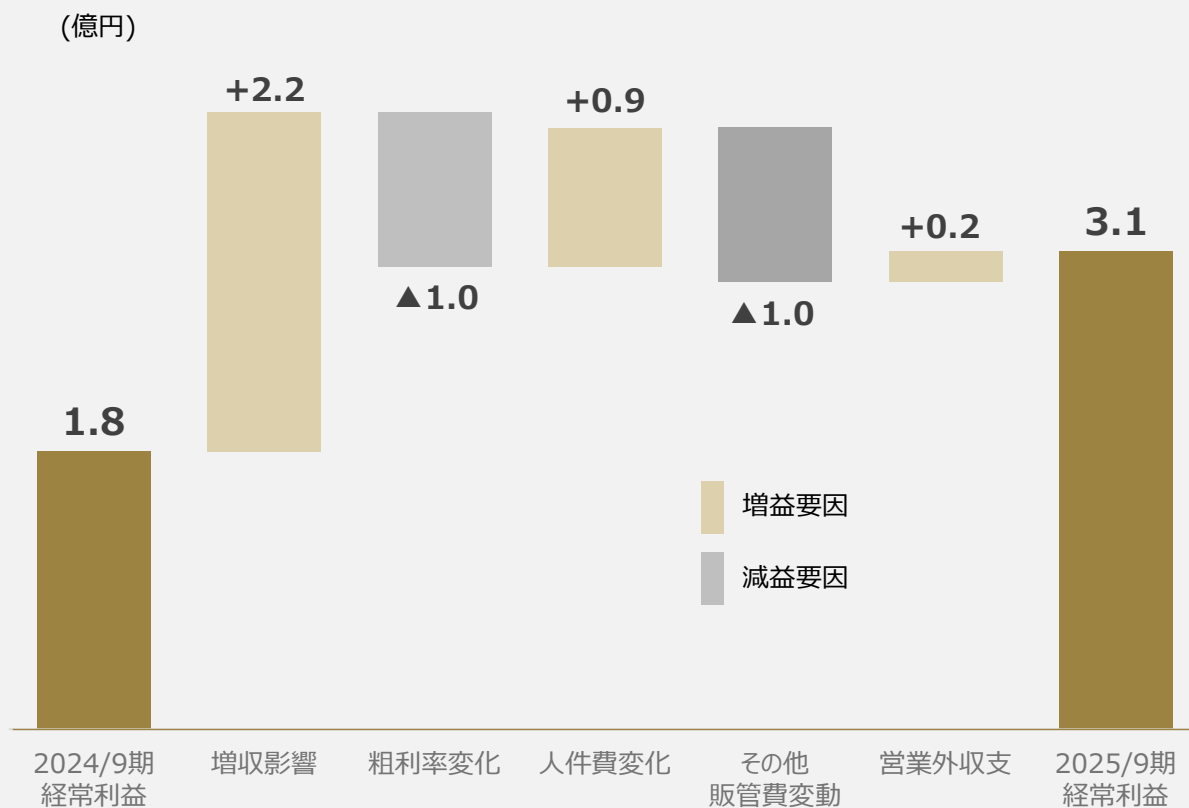
注) 2021/9期以前の新増改築案件売上は非開示



2025年9月期 経常利益増減益要因分析

- 経常利益は前年比1.3億円増加。牽引役はメディカルトータルソリューション事業の増収効果。生産性改善に伴い人件費負担も軽減
- 一方、粗利率は前年と比較して0.4ポイント低下。新增改築案件売上は増加したものの、その他大型案件減収の影響はカバーできず。当期はファスピア買収関連費用が1億円発生。これら収益圧迫要因を増収効果などで吸収

経常利益増減益分析



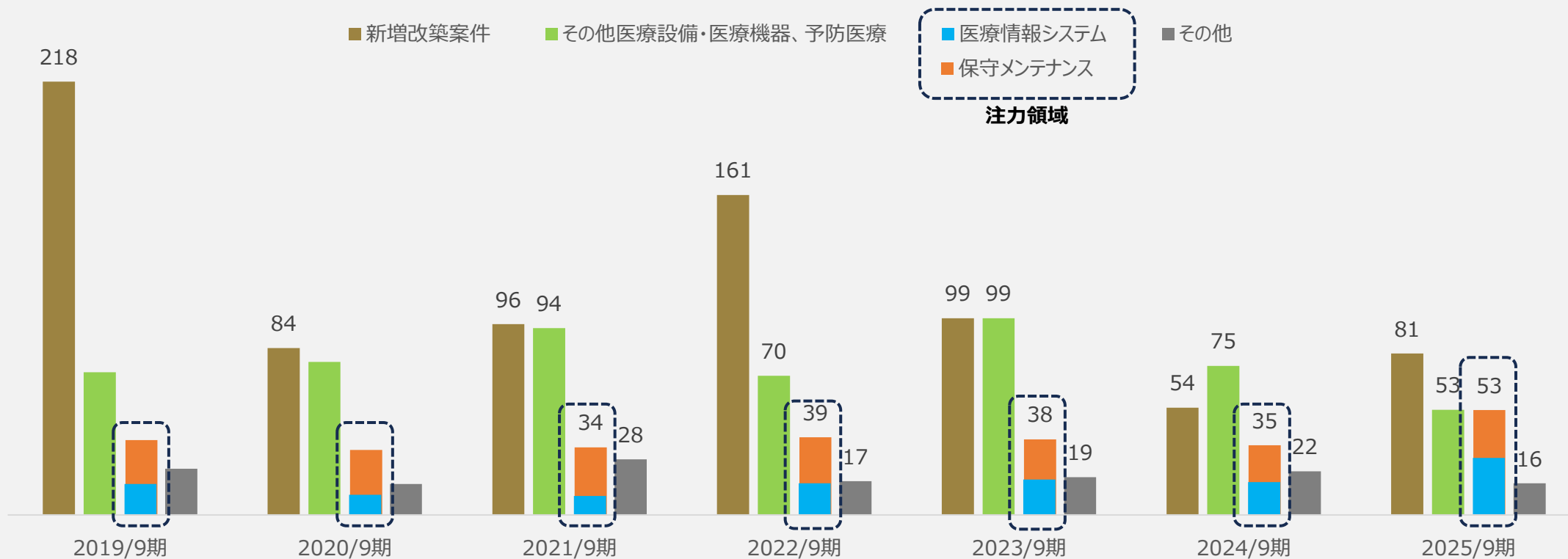
- 増収影響 +2.2億円
 - ・メディカルトータルソリューション事業における新增改築案件の売上増が影響
- 粗利率変化 ▲1.0億円
 - ・粗利率は0.4ポイント低下 (13.2%→12.8%)
 - ・新增改築案件以外の大型案件減収が影響
- 人件費変化 +0.9億円
- その他販管費変動 ▲1.0億円
 - ・買収関連費用 ▲1.0億円
 - ・業務委託費 +0.1億円
- 営業外収支 +0.2億円



メディカルトータルソリューション事業 売上内訳推移

- 4Q累計のメディカルトータルソリューション事業は、新增改築案件の伸長に加え、医療情報システム、保守・メンテナンスから成る注力領域も急伸。特に、医療情報システムが好調に推移
- 一方、その他医療設備・機器、予防医療は漸減。医療機関の厳しい経営環境を背景とした買い控えや予算圧縮などが影響

メディカルトータルソリューション事業売上内訳





2025年9月期 貸借対照表

- 総資産は前期末よりほぼ横ばいの109億円。自己資本比率は51.8%と財務安定性に変化なし
- 期末時点のネットキャッシュは8億円減の47億円。なお、8月に発表したファスキアホールディングスの株式取得に関する資金調達や支払は2026/9期に反映

財政状態の推移

(百万円)	2022/9期	2023/9期	2024/9期	2025/9期	前期末比差異
流動資産	12,232	13,508	9,583	9,298	▲285
現預金	5,480	5,537	5,574	4,776	▲797
受取手形・売掛金/契約資産	4,360	7,796	3,821	4,198	+377
棚卸資産	24	21	71	23	▲48
その他	2,368	153	118	302	+184
貸倒引当金	▲0	▲1	▲1	▲2	▲1
固定資産	1,235	1,185	1,076	1,571	+494
総資産	13,468	14,693	10,659	10,869	+209
負債	7,930	8,969	4,918	5,050	+131
買掛金	3,960	7,620	3,417	3,470	+53
有利子負債	92	2	9	7	▲2
その他	3,876	1,347	1,490	1,572	+81
純資産	5,537	5,724	5,741	5,819	+78
負債純資産合計	13,468	14,693	10,659	10,869	+209



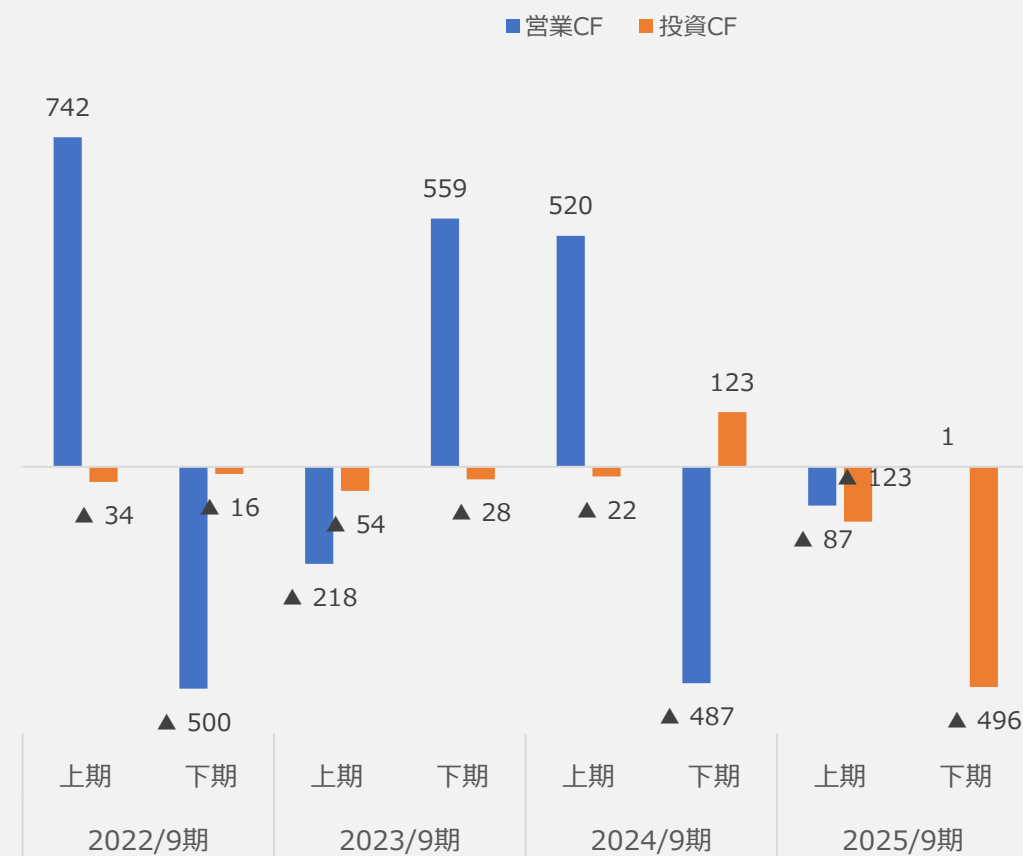
2025年9月期 キャッシュフローの状況

- 2025/9期のFCFは7.1億円のマイナス。営業CFは運転資金増から減少となったうえ、資本業務提携加速で投資CFも嵩む。具体的には、資本業務提携関連支出で1億円、投資有価証券取得で4億円を計上
- 半期ベースで見ると、投資CFのキャッシュアウト増加傾向が顕著。成長に向けてキャッシュの効率化を推進

キャッシュフローの推移

(百万円)	2023/9期	2024/9期	2025/9期
営業CF	341	33	▲86
税前当期純利益	431	273	308
売上債権/仕入債務増減	223	▲227	▲324
その他	▲313	▲13	▲71
投資CF	▲82	100	▲619
FCF	259	133	▲706
財務CF	▲202	▲97	▲100
有利子負債の純増減	▲94	▲1	▲2
株式の発行による収入	—	7	6
その他	▲108	▲102	▲104

* FCF=営業CF+投資CF で算出





2

2026年9月期決算見通し



2026年9月期業績見通し

- 2026/9期は期初に全株式を取得したファスピアホールディングスがフル寄与。売上は95%増、EBITDAは2.5倍、経常利益は23%増となる見通し。なお、ファスピアホールディングス買収に伴い、低侵襲医療機器販売、レンタルの2セグメントを新たに設定
- 一方、既存のメディカルトータルソリューション事業は増収基調維持ながら、高採算の新增改築案件減少から減益を想定。また、のれんの償却や株式取得費用が税務上は損金不算入となることなどから実効税率が一時的に上昇し、当期純利益は大幅減少

経営成績の推移

(百万円)	2023/9期 実績	2024/9期 実績	2025/9期 実績	2026/9期 見通し	前年比 増減率
売上高	26,632	19,804	21,489	42,000	+95.4%
メディカルトータルソリューション	25,502	18,610	20,257	21,104	+4.2%
遠隔画像診断サービス	724	777	822	832	+1.2%
低侵襲医療機器販売				17,680	-
レンタル				571	-
その他（2025/9期以前は給食）	404	415	409	1,811	4.4倍
EBITDA*	544	277	378	933	2.5倍
営業利益	440	178	288	460	+59.6%
メディカルトータルソリューション	371	94	307	128	▲58.2%
遠隔画像診断サービス	55	66	69	67	▲2.6%
低侵襲医療機器販売**				227	-
レンタル**				85	-
その他（2025/9期以前は給食）	10	14	8	31	3.6倍
調整	2	2	▲97	▲80	赤字縮小
経常利益	431	181	308	380	+23.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	271	136	152	8	▲94.8%

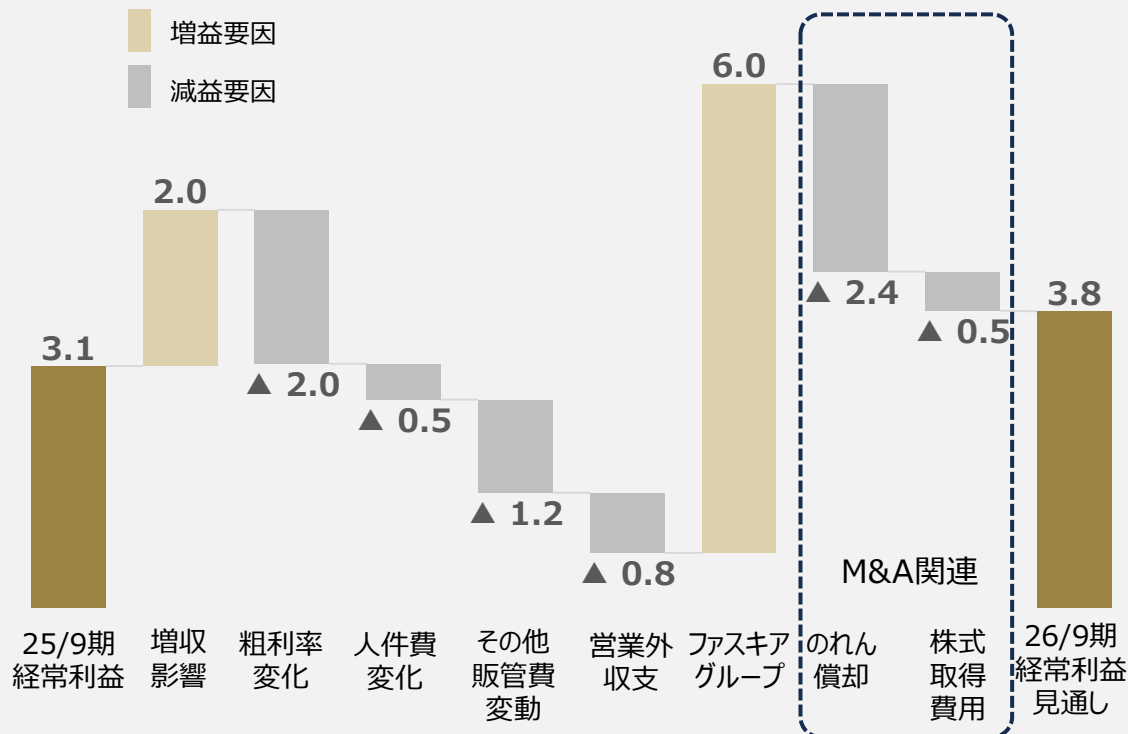
*EBITDA = 営業利益 + 償却費と定義 **セグメント利益はのれん償却費・株式取得関連費用配分額を控除後ベース



2026年9月期想定増減益分析

- 増益の主因は、今期よりグループ化したファスキアの貢献。のれん償却やM&A関連費用の計上を勘案しても、利益貢献は大きい
- 一方、旧レオクラングループとなる従来ベースの想定増減益要因分析では、メディカルトータルソリューション事業の増収効果があるものの、粗利率低下や人件費を含む販管費の上昇などから減益となる見通し
- 旧レオクラングループの想定粗利率は11.9%。メディカルトータルソリューション事業の増収はあるも、新增改築案件減少の影響から0.9ポイントの低下を見込む

経常利益増減益分析



<旧レオクラングループ>

- 増収影響 +2.0億円
 - ・メディカルトータルソリューション事業の増収
- 粗利率変化 ▲2.0億円
 - ・粗利率は0.9pt低下を想定（12.8%→11.9%）
- 人件費変化 ▲0.5億円
- その他販管費変動 ▲1.2億円
- 営業外収支 ▲0.8億円

<ファスキアグループ>

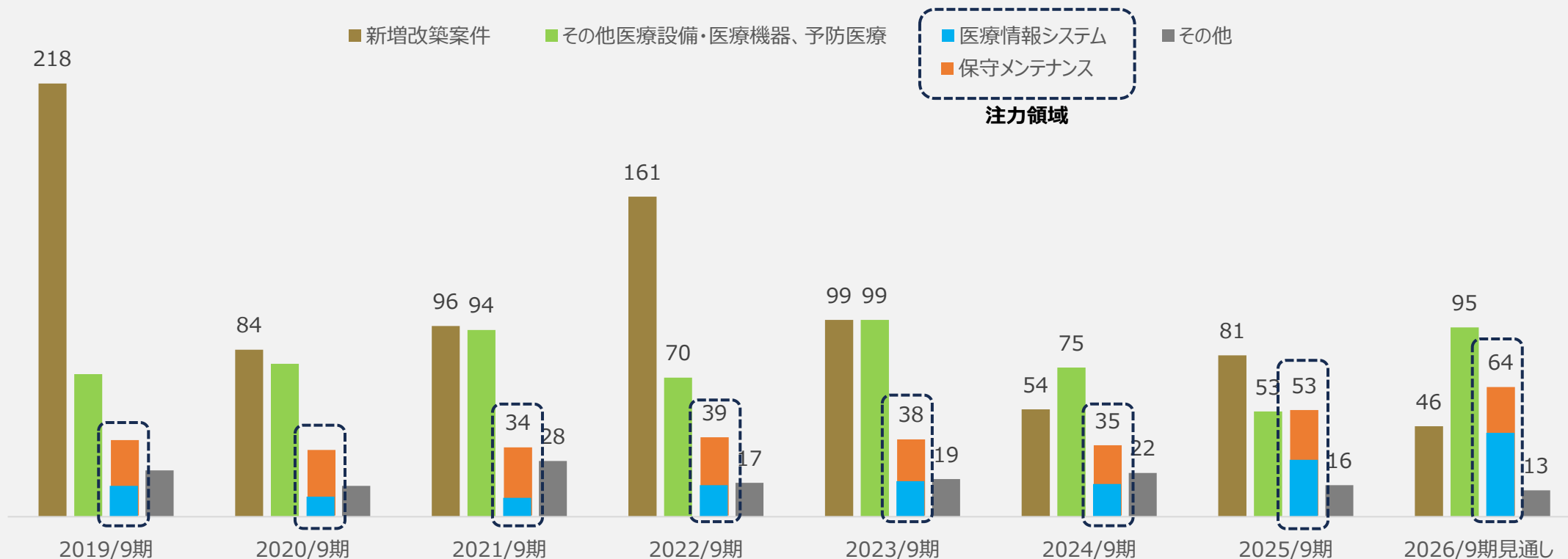
- 経営統合 +6.0億円
- M&A関連費用 ▲2.9億円
 - ・のれん等の償却 ▲2.4億円
 - ・株式取得関連費用の増加 0.5億円



メディカルトータルソリューション事業 売上内訳推移

- メディカルトータルソリューション事業も売上内訳は大きく変化する見通し。主力の新增改築案件売上は顧客である病院の経営環境厳しく、減少の見込み。その一方、前期伸び悩んだ医療設備・機器、予防医療は拡大を計画
- 注力領域である医療情報システム、保守・メンテナンスについてはさらに伸長を計画。引続き、医療情報システムが増収の牽引役を担う

メディカルトータルソリューション事業売上内訳





新增改築案件 予想前提

- 2026/9期の新增改築案件の売上は年間で45億円を想定。前期比44%の減少となる見通し
- 先行指標たるトータルパックシステム件数は増加しているものの、医療機関の厳しい経営環境、建築費高騰などから案件先送りが発生

メディカルトータルソリューション事業における病院新增改築案件向け医療機器一括販売の推移

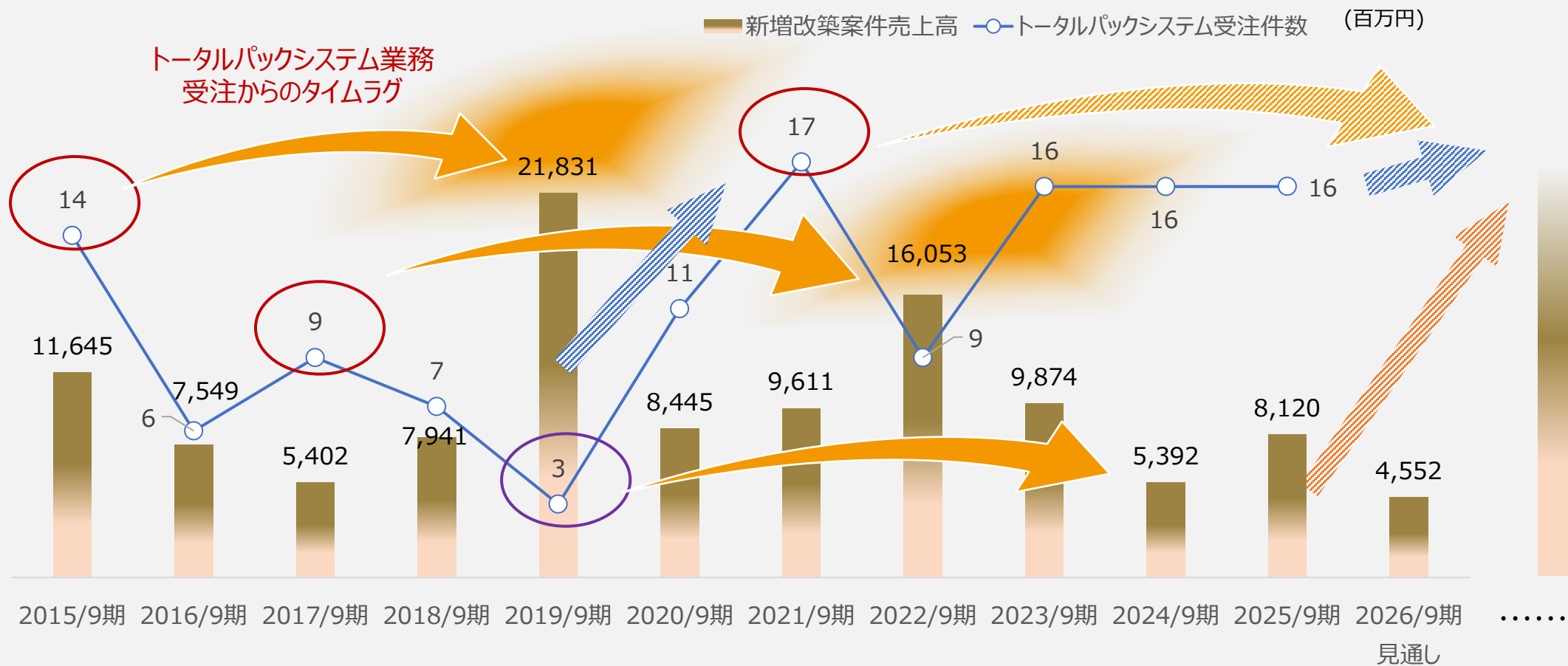
(百万円)		2022/9期	2023/9期	2024/9期	2025/9期	2026/9期 見通し	前期対比
20億円以上	売上高	9,877	2,296	2,942	3,768	-	▲3,768
	件数	3	1	1	1	-	▲1
	平均単価	3,292	2,296	2,942	3,768	-	▲3,768
10億円以上	売上高	3,995	3,594	-	1,302	1,300	▲2
	件数	3	3	-	1	1	-
	平均単価	1,332	1,198	-	1,302	1,300	▲2
10億円未満	売上高	2,180	3,984	2,449	3,049	3,252	+202
	件数	6	13	10	10	12	+2
	平均単価	363	306	244	304	271	▲33
合計	売上高	16,054	9,874	5,392	8,120	4,552	▲3,568
	件数	12	17	11	12	13	+1
	平均単価	1,338	580	490	676	350	▲326
事業売上に占める一括販売比率		56.0%	38.7%	29.0%	40.1%	20.9%	▲19.2pt



新增改築案件の先行指標

- 2025/9期のトータルパックシステム受注件数は16件。件数は高水準を維持しており、将来の新增改築案件の売上貢献に期待
- ただし、2026/9期の増改築案件売上見通しは、数期前のトータルパックシステム受注件数に反して減少を想定。これは医療機関の厳しい経営環境、建築費高騰などによる案件の後ズレが原因。新增改築ニーズに変更はなく、2027/9期以降には着実に顕在化へ

メディカルトータルソリューション事業新增改築案件売上とトータルパックシステム受注件数との関係



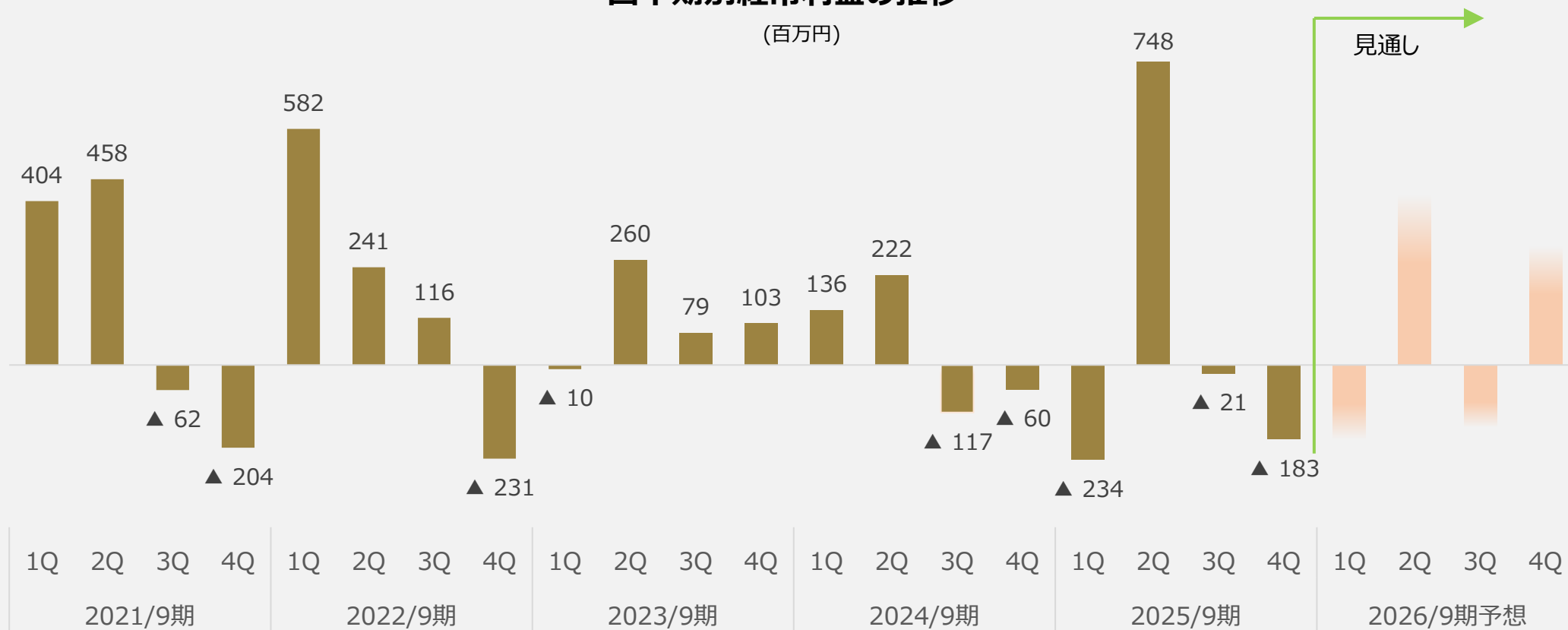


2026年9月期四半期別経常利益想定

- 2026/9期も四半期毎に明暗が分かれる公算大。案件計上のタイミングによるボラティリティは残る見通し
- 当社グループに加わったファスキアグループの業績ボラティリティは低い傾向にあるものの、当期のメディカルトータルソリューション事業の変動を吸収するには至らず

四半期別経常利益の推移

(百万円)



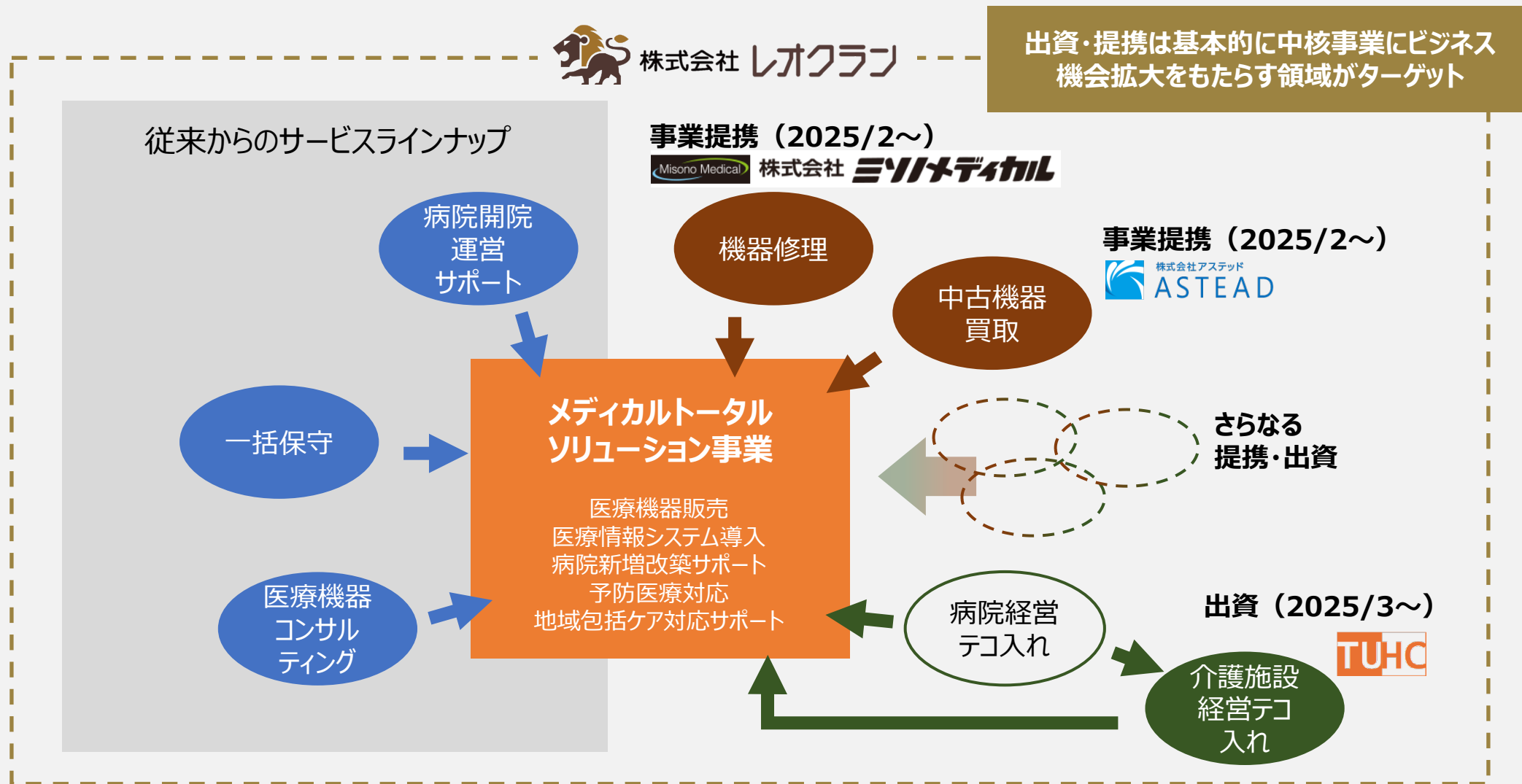


3

ファスキアグループ子会社化



出資・提携に対する当社の基本的方針





株式取得の概要



ファスキアホールディングス株式会社の株式取得契約を締結し、
ファスキアホールディングス及びその子会社 3 社を100%子会社化

取締役会決議日	: 2025年8月19日
契約締結日	: 2025年8月19日
株式譲渡実行日	: 2025年10月 1 日
取得持分	: 100%
取得価額（含助言費用）	: 71.5億円
株式取得資金	: 手元資金取崩し及び借入増（50億円）により対応



本件の目的



本件の目的

- 企業規模の拡大とポートフォリオ強化による経営の安定化
- それぞれの強み・ノウハウを活かして、東海地方を中心に、相互の顧客網を活用した販売チャネルの拡大、顧客基盤を通じた提供サービスの高付加価値化など**高いシナジーの発現**

今後の方針

- 当面はファスキアホールディングスを**当社の中間持株会社としてグループ化**
 - ・事業子会社3社の位置づけは継続
 - ・**基本的に現経営陣がそのまま執行**。ただし、上場企業グループとして不可欠なガバナンス体制を整備・強化
- レオクラングループとしてのシナジー最大化をあらゆる角度から追求。特に傘下の子会社フォームは、「**メディカルトータルソリューション事業**」と並ぶグループ中核と位置づけ



ファスキアグループ概要



ファスキア
ホールディングス

連結年商**209.5**億円*
(25年8月期)

100%
株式所有



当社グループ
年商**215**億円

100%



株式会社フォーム

年商**190.9**億円

- VI事業部 : 血管疾患に対するカテーテル治療用機器
- SHD事業部 : 最先端の医療の中でも特にカテーテルに特化
- CRM事業部 : ペースメーカ等不整脈に関わる診断・治療機器
- サージカル事業部 : 手術に関わる様々な製品
- 内視鏡事業部 : 消化器系や外科領域における内視鏡関連製品全般
- 透析事業部 : 人工透析装置や消耗品の販売

100%



株式会社シンコム

年商**12.9**億円

- 補聴器の販売、アフターケア

100%



中京三洋株式会社

年商**5.8**億円

- 病院・介護施設向けの床頭台・コインランドリー等機器の販売・レンタル

*当社会計監査人による監査証明はなし



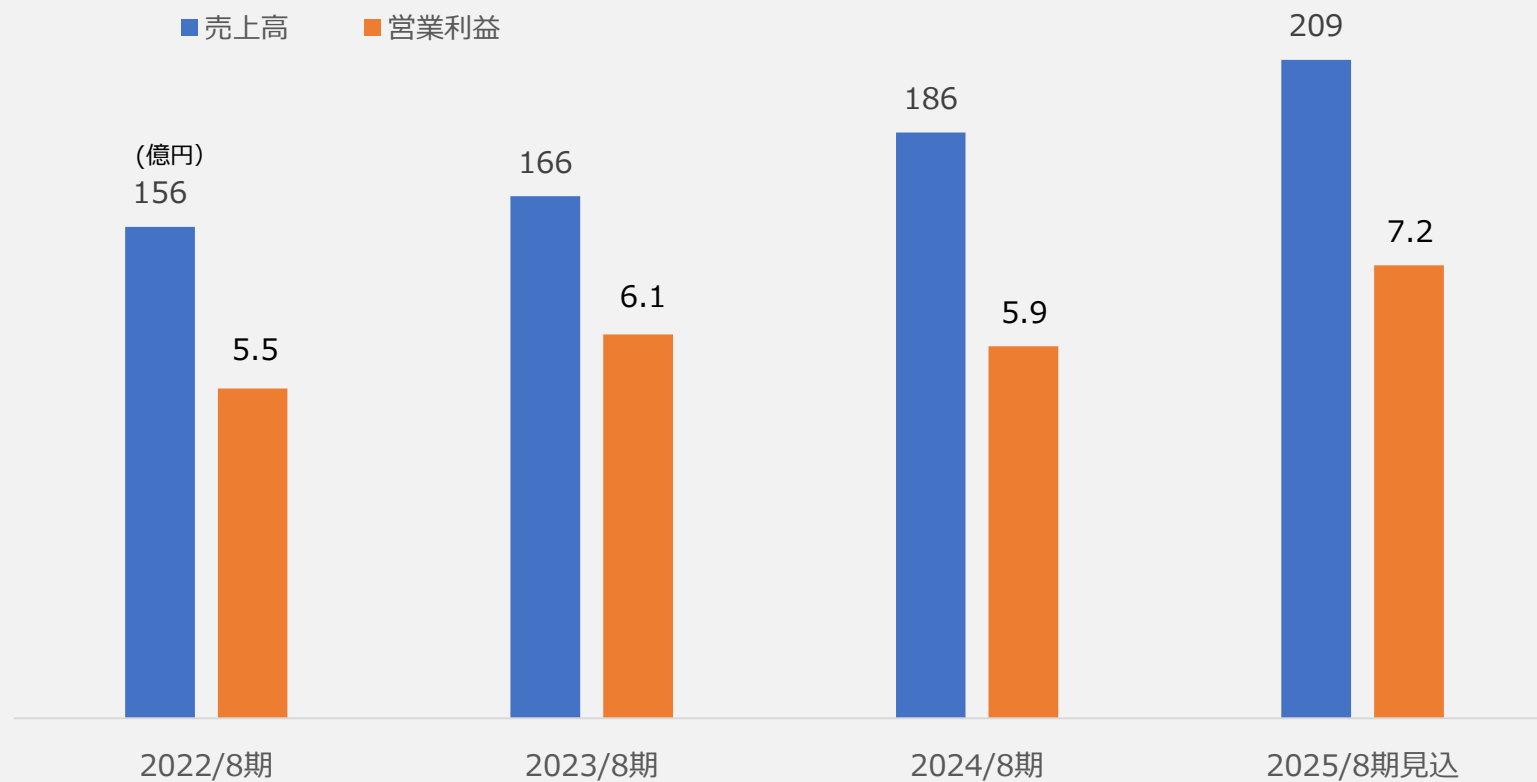
＜参考＞ファスキアグループ各社の概要

会社名	ファスキアホールディングス株式会社 	株式会社フォーム 	株式会社シンコム 	中京三洋株式会社 
本社所在地	名古屋市名東区 上社四丁目191番地	名古屋市名東区 上社四丁目191番地	名古屋市名東区 上社四丁目191番地	名古屋市名東区 本郷三丁目91番地
設立	1988年3月	2010年9月	1990年9月	1967年6月
代表者	代表取締役社長 薫田昌伸	代表取締役社長 大西直樹	代表取締役社長 松永謙二	代表取締役社長 傍島健次
事業内容	グループ会社の経営管理	医療機器等の販売	補聴器の販売	病院・介護施設、宿泊施設等 向けレンタル事業
資本金	90,000 千円	78,400 千円	10,000 千円	10,000 千円
売上高 (2025年8月期)	635,936 千円	19,092,191 千円	1,292,979 千円	581,473 千円
従業員数 (2025年8月時点)	15 名	112 名	89 名	34 名



＜参考＞ファスキアグループの業績推移

経営成績の推移



(※) 各社の決算数値の合算から主要な内部取引を消去した簡易的な連結数値



当社業績への影響（過年度実績基準）

企業	株式会社 レオクラン		ファスキアホールディングス 株式会社		株式再編後
注記事項					
売上高	2025/9期実績 215 億円	+	2025/8期 簡易連結基準 210 億円	=	単純合算 (2025/9期) 425 億円程度
のれん償却前 営業利益	3 億円		7 億円		10 億円
年間のれん償却	-		-		約 2.4 億円 (精査確定前ベース)
従業員数	155 人		250 人		405 人



財務状況（過年度実績基準概算）



2025/8期末実績

現預金 **34.0**億円

有利子負債 **2.5**億円

自己資本比率 **47.2%**



2025/9期末実績

現預金 **47.8**億円

有利子負債 **0.0**億円

自己資本比率 **51.8%**

2025/10 借入増 **50**億円、株式取得関連費用 **71.5**億円



2026/9期初時点の概算状況

現預金 **60.3**億円

有利子負債 **52.5**億円

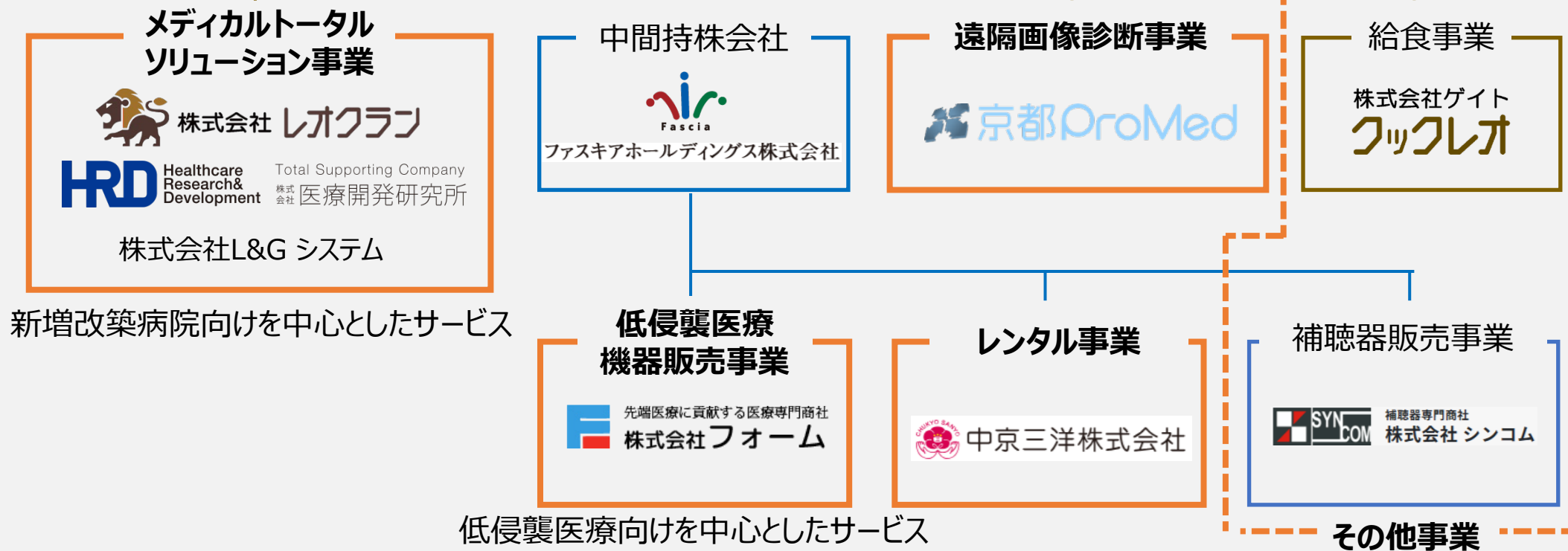
実質無借金状態は継続となり、次なる成長投資の原資に充当



当面の組織構造と事業セグメント



株式会社 レオクラフ



2026/9期以降の報告セグメント



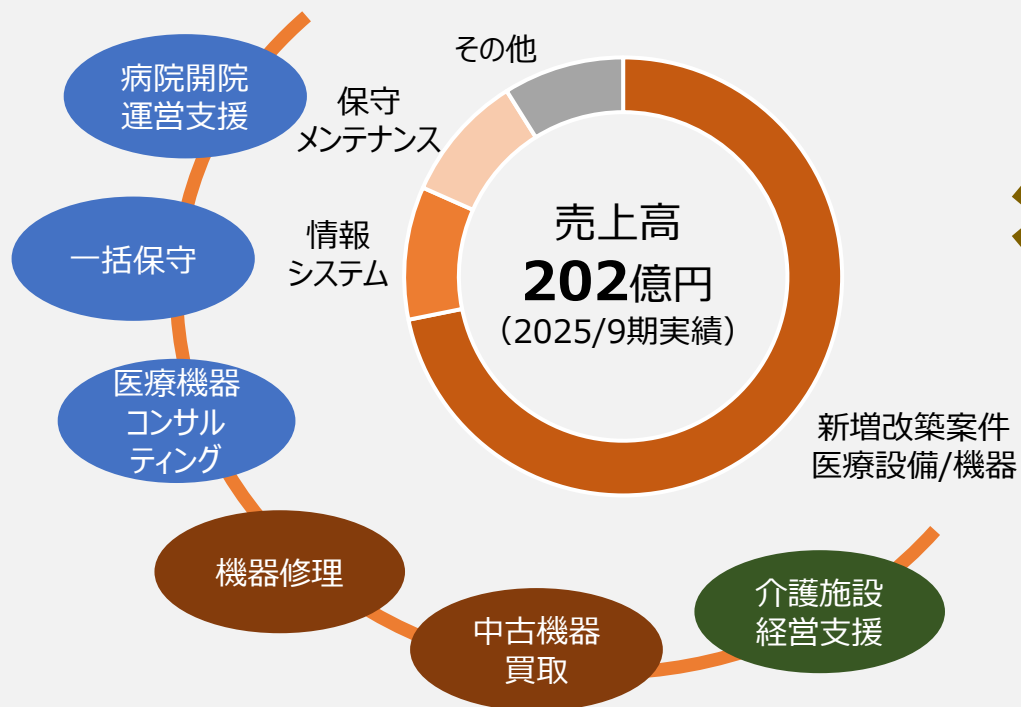
ファスピアHD子会社化により、インフラ・オペレーションの2アプローチ体制を構築



株式会社 レオクラフ

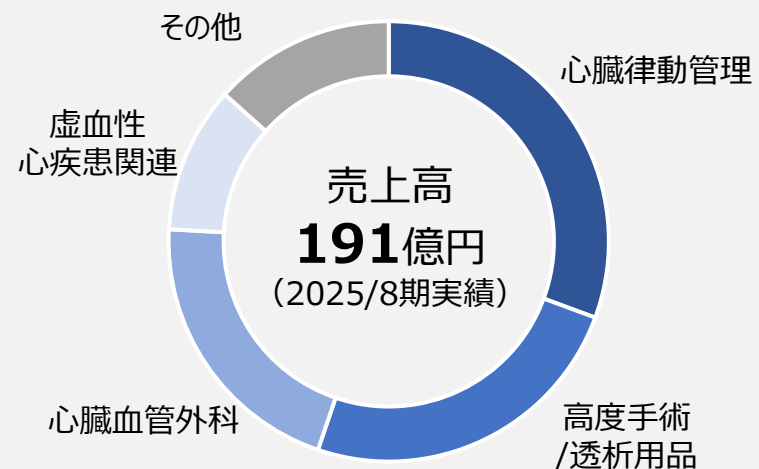
医療インフラ・アプローチ

メディカルトータルソリューション事業



医療オペレーション・アプローチ

低侵襲医療機器販売事業





積極的なM&Aは今後も継続



株式会社 レオクラン

2023/11 金融資産の積極活用を目指し、M&Aなどへの積極対応方針を明示

		対象企業	出資比率	狙い
2025/2	資本業務提携	 株式会社 ミソノメディカル	14%	医療機器の点検・修理事業の強化
2025/2	資本業務提携	 株式会社アステッド ASTeAD	3%	中古医療機器の買取チャネル獲得
2025/3	資本業務提携	 株式会社TUホームケア	25%	介護施設経営テコ入れノウハウ獲得
2025/10	子会社化	 ファスキアホールディングス株式会社	100%	高度専門医療事業取得

医療インフラ・アプローチ

医療オペレーション・アプローチ

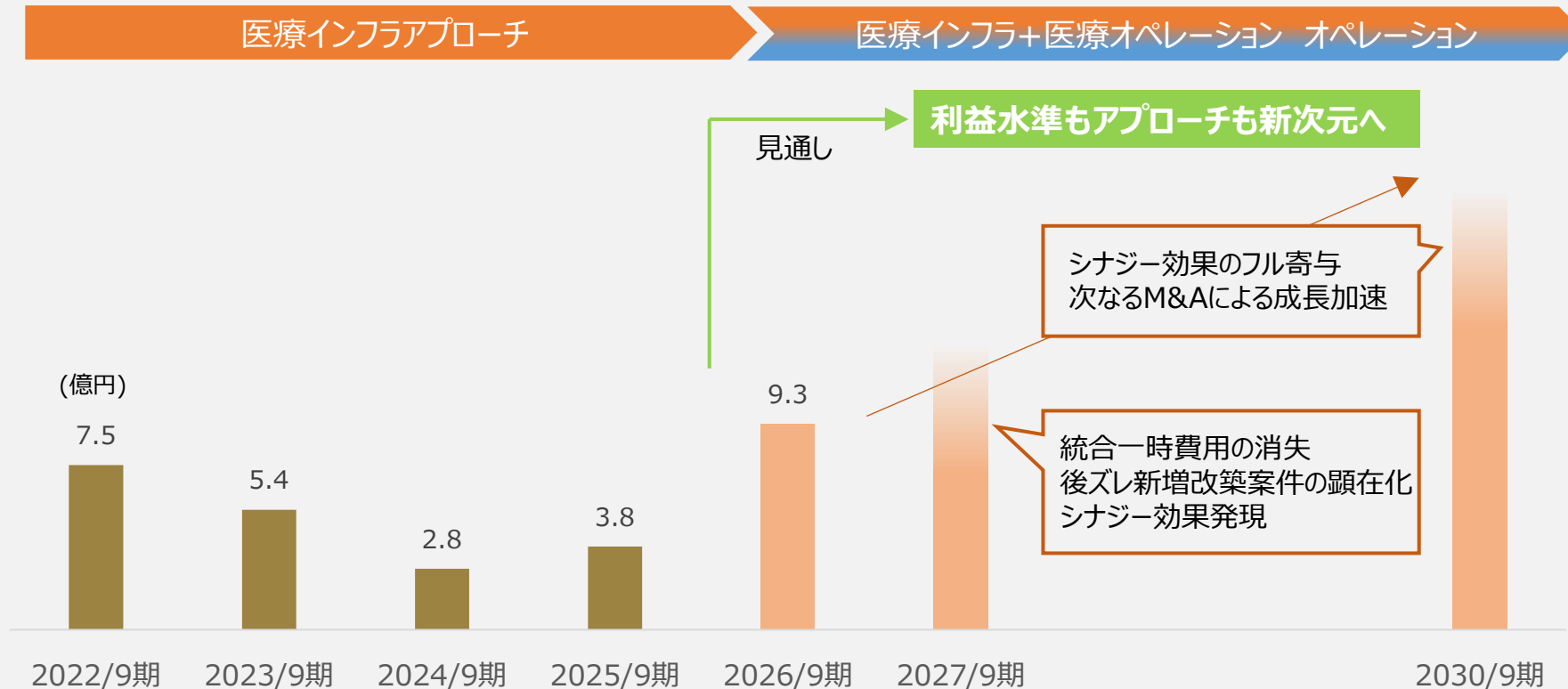
両アプローチの強化・加速に向けて、**今後もM&Aを積極的に検討**



新次元のステージへ

- 2027/9期は特殊要因の緩和・解消、シナジー効果発現などから成長の更なる加速を計画。より長期ではシナジー効果のフル寄与に加え、次なるM&Aも成長を加速させるシナリオを想定
- 利益水準もビジネスアプローチも、ファスキアの統合を機に新たな次元へとシフト

EBITDAの推移





これからのレオクラン

これまでのレオクラン

病院の新改築案件に特化し、
狩猟型ビジネスを展開する医療機器商社



これからのレオクラン

インフラからオペレーションまで
高度専門医療の支援に特化した高付加価値追求型医療機器商社へ



4

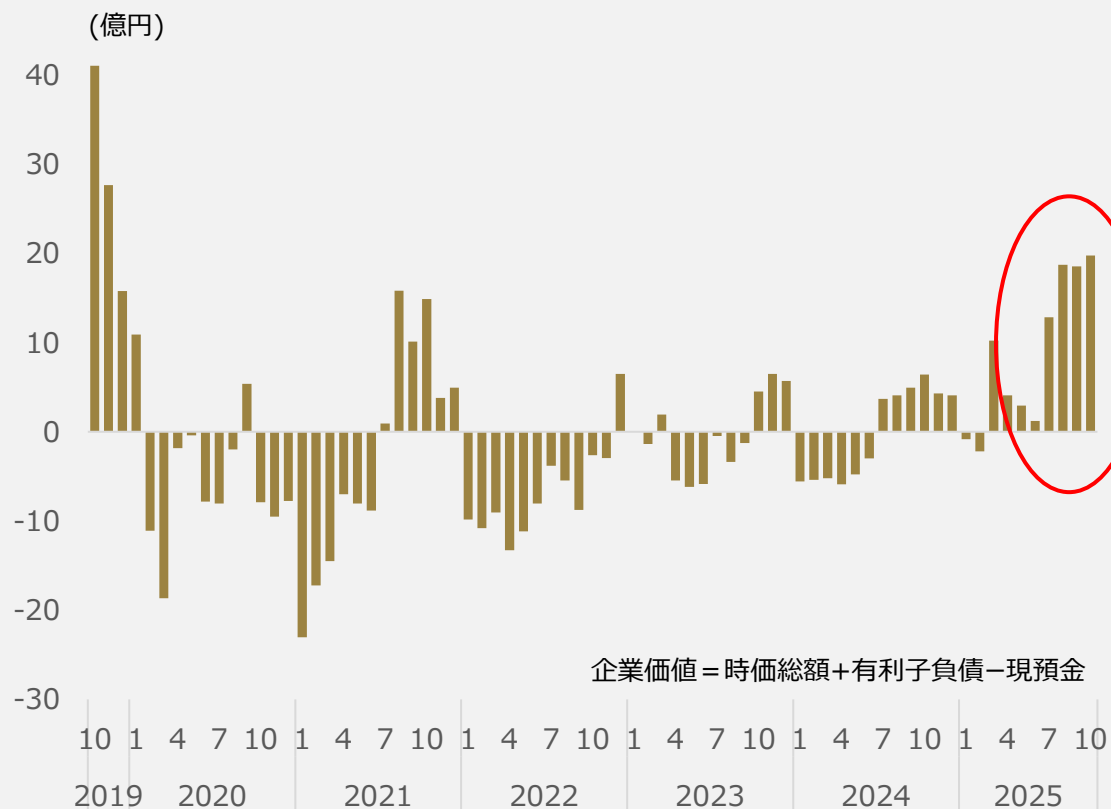
資本コストや株価を意識した経営（アップデート）



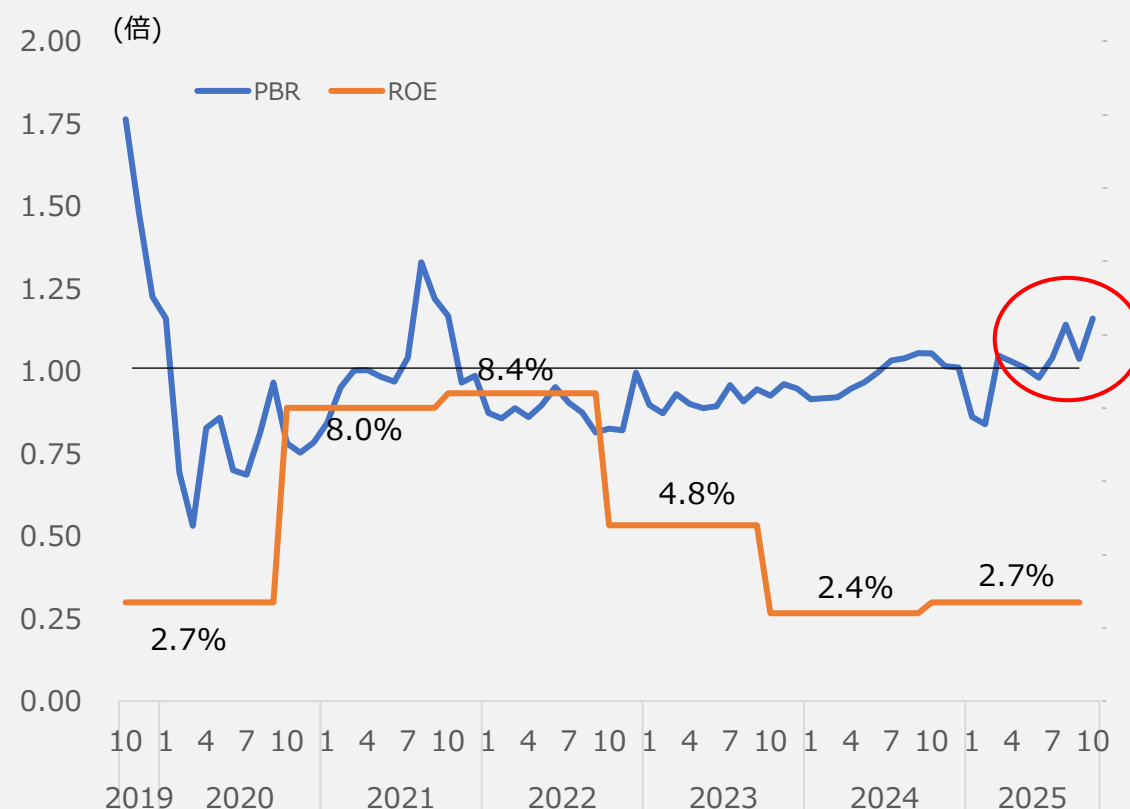
トピックス2：資本コストや株価を意識した経営（アップデート）

- 企業価値は直近大幅増加。ファスキア買収など多数の企業との資本参画を通じた成長シナリオが市場に徐々に浸透
- PBRも直近は1倍超を回復。ROE実績とは乖離拡がるも、市場は将来の成長に注目と認識。資本コストを意識した経営についてもアップデートを開示

企業価値の推移



PBRとROEの推移





業績・財務ハイライト

決算年月		2020年 9 月	2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期	2024年9月期	2025年9月期
売上高	(千円)	21,996,890	26,347,156	29,767,431	26,632,145	19,804,248	21,489,527
経常利益	(千円)	207,244	595,939	709,660	431,662	181,146	308,848
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	120,839	390,983	437,051	271,306	136,057	152,781
包括利益	(千円)	141,111	427,266	462,709	294,367	112,733	176,237
資本金	(千円)	536,169	539,369	539,369	539,369	542,869	545,975
発行済株式総数(自己株式を含む)	(株)	1,954,400	1,960,800	1,960,800	1,960,800	1,967,800	5,922,000
純資産額	(千円)	4,817,569	5,159,691	5,537,971	5,724,103	5,741,300	5,819,364
総資産額	(千円)	13,414,303	12,964,840	13,468,183	14,693,938	10,659,647	10,869,407
1株当たり純資産額*	(円)	802.93	855.78	915.42	946.33	943.51	951.55
1株当たり配当額	(円)	45.0	40.0	50.0	50.0	50.0	17.0
1株当たり当期純利益*	(円)	20.84	66.64	74.30	46.12	23.09	25.86
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益*	(円)	20.62	66.11	73.84	45.84	22.96	25.76
自己資本比率	(%)	35.1	38.8	40.0	37.9	52.3	51.8
自己資本利益率	(%)	2.7	8.0	8.4	4.8	2.4	2.7
配当性向	(%)	72.0	20.0	22.4	36.1	72.2	65.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲1,906,273	1,298,076	242,357	341,555	33,083	▲86,650
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲63,598	▲42,129	▲49,958	▲82,011	100,752	▲619,823
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	238,372	▲298,007	▲120,931	▲202,311	▲97,225	▲100,727
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	4,430,782	5,388,721	5,460,189	5,517,421	5,554,031	4,746,830
従業員数	(人)	157	162	175	176	170	155
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(54)	(58)	(62)	(62)	(62)	(68)

*2024年10月1日付株式分割（1:3）の影響考慮後



ご留意事項

当資料は、当社の現状をご理解いただくことを目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料に記載されている内容は、当資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づく計画、期待、判断を根拠としております。したがって、実際の業績等は、経済情勢等様々な不確定要素の変動によって、記載の業績予想等と異なる結果になる可能性があります。実際に投資を行う際のご決定は、必ず投資家ご自身の判断に基づきなされるようお願いいたします。

株式会社レオクラン
経営企画室 IR担当
TEL : 06-6387-1554
Email : ir-support@leoclan.co.jp